

入賞

未来を変える「さらしタオル」

葛尾村立葛尾中学校3年 ^{ワタナベ}渡辺 ^{サクラ}さくら

「何か私たちにもできるSDGsの目標はないだろうか。」

総合的な学習の時間の中で、SDGsについて学ぶ機会がありました。質の高い教育を国民が受ける、産業と技術革新の基盤を作っている、戦争のない平和な日常を送ることができる、という3つが日本でクリアしている目標だそうです。17もある目標の中で、達成できているのが3つだけということに衝撃を受けました。

そこで、14番目の目標の「海の豊かさを守ろう」を達成するために何か始めたいと強く思いました。川から海に流れ被害を出しているマイクロプラスチックを減らすために、マイボトルやエコバッグを使用することはすでに実践しています。その他に自分たちができることは、生活排水の汚水を無くすことだと考えました。

私たちは、家庭科の授業を利用して「さらしタオル」を作ることにしました。家庭科の先生に相談するとさらしを裁ち、ミシンで縫ったら誰でも簡単に作ることができる「さらしタオル」を提案してくださいました。そこに葛尾中学校のキャラクター「カットくん」をアイロンプリントし、オリジナルのものに仕上げました。これをきっかけにSDGsを意識した活動に全校生で取り組むことにしました。

さらしで作るタオルのメリットは、吸収性が高く、速乾性に優れている点です。梅雨の洗濯物が乾きにくい時期にも最適です。毎日、洗濯ができ、すぐに乾くので衛生面を考えてもとても気持ち良く使えます。自分たちや先生方で使ってみると、洗濯の際に洗剤の量を減らせる、タオルに比べて洗濯物の量が減るから節水につながる、さらしは丈夫で長く使えるなど嬉しい声が聞こえてきました。実際に私も使ってみて、エコを実感しました。薄いさらしでも十分に体の水分を拭き取ることができるのです。

ふわふわなタオルに慣れていると肌触りは良くないかもしれませんが、環境にはとても優しいタオルです。普段の生活に少し取り入れるだけで、エコな生活へ切り替

えていくことができます。コロナ禍で家にいる時間が増えているので、自分たちの生活を見直す良い機会ではないでしょうか。明るい未来を作るためにも、私たちが率先してできることを発信していく必要があります。

東日本大震災から10年が経ちました。いつまでも支援される側でいてはいけなさと子どもながらに感じています。これまでの支援を胸に、復興への一歩を踏み出すときなのです。若い世代の私たちが何かきっかけを作らなければなりません。私たち葛尾中学校の全校生徒4名で、定期的に福島民報新聞への意見投稿を行っています。「さらしタオル」についても投稿したところ、福島市で同じ活動をされている方が記事を見て学校に連絡をくださいました。私たちの発信を受け取ってくださる方がいる、そのことがとても嬉しかったです。そして確信できた瞬間でした。SDGsの目標を達成するために、「さらしタオル」の輪を葛尾から世界へ広げていきたいです。